



令和8年度 7月号

令和8年6月29日

横浜市立新石川小学校

学校だより

【学校教育目標】

豊かなかかわりを通して
ともに高め合い 主体的に取り組む子

学校 HP へはこちらの QR コードから→

TEL 911-6281 FAX 912-4892



「なぜ」「どうして」「わからない」から始まる学び

校長 岡崎 恵子

学校の花壇でひまわりが大輪の花を咲かせ、本格的に夏の訪れを感じる季節となりました。あと3週間で学校は夏休みを迎えます。夏休み初日の7月18日に行われる、下谷自治会様とPTA共催の「夕涼み・盆踊り・花火大会」を子どもたちは今から心待ちにしています。4月から3ヶ月、保護者・地域の皆様には学校の教育活動にあたたかいご支援・ご協力をいただきました。ありがとうございました。夏休み明けも子どもたちが安心・安全に学校生活を送れるよう、前期前半のまとめをまいります。



「80の2、3倍ってどうやったら求められるんだろう。」

「80の2倍なら、160でしょ。」

「2・3倍ってイメージがわからない。わからない。」

「2倍より大きくて3倍より小さいってことだから…。」

算数の時間、大きなホワイトボードに数直線・図・絵をかいて3人で考えを出し合っていました。

これは、ある教室での子ども同士のやりとりです。とても素敵だったのは「わからない」が言えたこと。そして、説明する子が解の求め方だけを伝えるのではなく図や絵に表しながら相手分かるように説明することで自分の思考も深めていたことです。最後には学び合いの「あしあと」が刻まれたホワイトボードを囲み、「そういうことか。」「なるほど。」と、どの子にも新しい気づきが生まれていました。

本校では、学校教育目標「豊かなかかわりを通して ともに高め合い 主体的に取り組む子」の育成を目指して、算数科を軸として授業研究を進めています。テーマ「自ら考え判断し、自分の想いや考えを表現し伝え合う子」のもと、年間を通して全教員が授業を公開し互いに見合い、研究会の中で学び合います。そのときの主語はいつも「子ども」です。子どもの姿を根拠に「子どもは自ら考えていたか」「子どもたちは学び合っていたか」を語り合います。また、この視点を、他教科等や日常でも育てていこうとしています。

「なぜ」「どうして」と疑問をもったら、教師がすぐに答えを教えるのではなく、子ども一人ひとりが自分なりのやり方や学ぶ場を自己選択・自己決定しながら、解決していくプロセスも大切にします。「わかったつもりではなく、わからないと言える」「わからないことは恥ずかしいことではなく、わからないことがあるからともに学び合える」…子どもたちにはこのような学び方・生き方にも気付いてほしいと思います。

【お知らせ】

○4月の学校説明会や学校だよりでお伝えした通り、本校は令和9年度に創立40周年を迎えます。6月22日には、第1回40周年記念式典実行委員会を開催しました。

実行委員長 工藤 理 様のもと、学校も子ども実行委員を中心に準備を進めて参ります。

○横井 莉湖 教諭が8月下旬より、仲村 詩織 教諭が9月下旬より、産休の予定です。